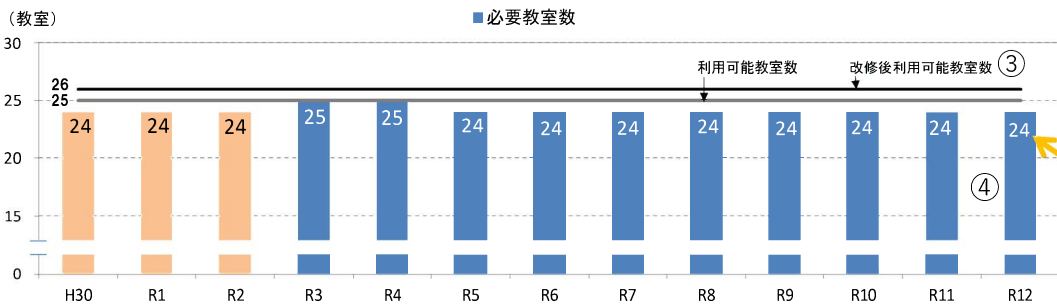
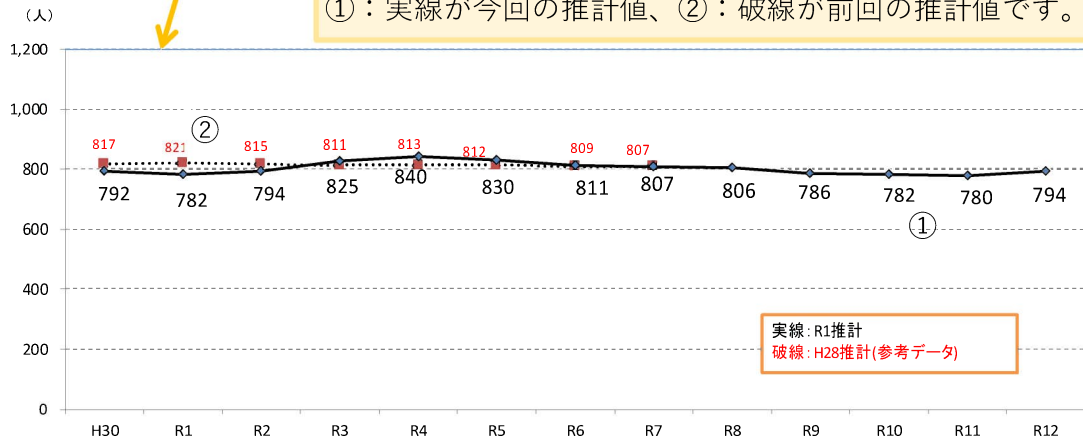


推計資料の見方

児童生徒数の推移のグラフです。
縦軸が児童生徒数、横軸が年度になります。
①：実線が今回の推計値、②：破線が前回の推計値です。



学年		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
⑤ 児童数	1学年(人)	152	122	123	154	139	136	125	123	132	134	134	137	140
	2学年	122	148	123	132	153	137	136	124	122	130	132	132	135
	3学年	137	123	150	128	133	154	138	138	125	123	131	133	133
	4学年	139	134	125	144	127	134	153	137	138	125	123	130	132
	5学年	116	137	134	145	142	126	132	152	136	137	124	123	130
	6学年	126	118	139	122	146	143	127	133	153	137	138	125	124
	合計	792	782	794	825	840	830	811	807	806	786	782	780	794
⑥ 必要教室数	1学年(クラス)	5	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	2学年	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4
	3学年	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	4学年	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	5学年	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	6学年	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	合計	24	24	24	25	25	24	24	24	24	24	24	24	24
利用可能な教室数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	
普通教室過不足	+1	+1	+1	0	0	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	+1	
改修後利用可能教室数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	
⑦ 最終過不足	+2	+2	+2	+1	+1	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	

利用可能教室数と各年度のクラス数(学級数)との比較のグラフです。
縦軸が教室数、横軸が年度になります。
③：黒の実線は、最終的な普通教室として利用可能な教室数です。
④：棒グラフは、その年度のクラス数です。
例) R2年度は、利用可能教室数26に対し、24クラスとなります。

学年ごとの児童生徒数及びクラス数(学級数)の推移の表です。

⑤：学年ごとの児童生徒数です。合計は①と一致します。

⑥：⑤に対応する学年ごとのクラス数です。合計は④(棒グラフの値)と一致します。

合計が、「適正規模及び適正配置に関する基本方針」の適正規模の基準に照らし、大規模校の区分に該当する場合は「黄色」、小規模校の区分に該当する場合は「緑色」で表示しています。

⑦：⑥のクラス数と利用可能教室数との過不足です。